

7～8ヵ月 お家で聞こえの検査をしてみましょう

7～8ヵ月健診の前に聞こえの検査を各家庭で行い、お子さまの聞こえの状態を確認してみましょう。

赤ちゃんの聴力は、生まれてから1年の間にめざましく発達します。しかし、なかには音を聞いたり、区別したりする能力が低下する「難聴」などがあります。毎年1000人のうち、1～2人が発症するといわれており、もし「難聴」があった場合、そのまま気付かずに放っておくと、言葉やコミュニケーションの発達が遅れてしまいます。6～7ヵ月になると音や声が出た方を見るようになり、ずいぶんはっきりとした反応を示してくれます。日頃から、大きな音や呼びかけへの反応があるかを見ていてあげましょう。

ビニール袋

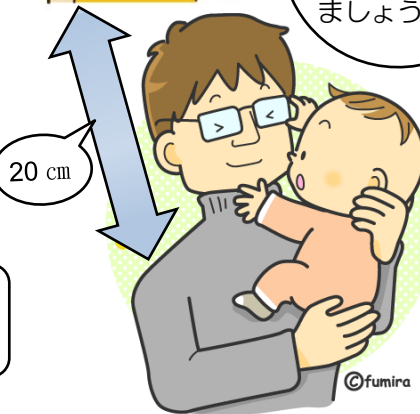
①スーパーやコンビニで
もらう買い物袋を用意する
(ビニール袋)

②ビニール袋を、
握りこぶし大に丸める

③丸めたものを片手で持ち
数回握って音を出します



聞こえの検査
をするときは、
20cm離
れてから行い
ましょう。



紙こすり法

①はがき大の用紙を
用意する

②用紙を半分に折る

③半分に折った用紙を
片手で持ち、親指と人差し指
でこするように音を出します

聞こえていると、振り返ったり、音源を探すしぐさがみられます。

※赤ちゃんに、音源（音を出すもの）が見えないように注意しましょう。

（物が見えたと、その方向に向いてしまいます）

※1人で検査せず、家族の人にも協力してもらいましょう。